

ヒートポンプ手応え

施設イチゴ

宮城県のJAみやぎ登米米
山イチゴ部会の部会長、千葉
正規さん(59)は、イチゴ栽
培のハウス35坪の一部にヒ
ートポンプを取り入れ、暖房費
を節約している。燃油高騰
時、暖房費は1カ月100万
円掛かっていたが、ヒートポ
ンプ導入後、半分程度の50万
円以下に減らせた。



イチゴの状態をチェックする千葉さん(宮城県登米市で)

千葉さんは、登米市米山町で
イチゴ35坪を栽培。厳寒期の11
月～3月の間は、ハウス内の暖
房が欠かせない。園芸用A重油
の高騰が続く中、経費を減らす
ためにヒートポンプ暖房機を導入
した。
2013年度に国の施設園芸
省エネ設備リース導入支援事業
を利用。本体や工事費などを含
め、3台分の合計約470万円

JAみやぎ登米 米山部会の千葉さん

暖房費が半減

の費用のうち、半額の助成を受
けて、15坪分に導入した。ヒ
ートポンプを主力とし、これまで
使っていた重油燃料による温風
機は、補助的に使うことにし
た。

15年度の燃油代は、1坪当た
り90円。10年前の2倍以上だ
が、ヒートポンプ主体の暖房に
切り替えたことで、全体の燃油
使用量は、従来の3分の1に減
った。ヒートポンプの電気代を
含めても、1カ月当たりの暖房
費は50万円以下に抑えることが

できた。

千葉さんは「ヒートポンプは
細かな温度管理ができ、暖まり
やすい。今年は重油価格が下が
ったが、環境保全の効果も考慮
して、別のハウスにも備えた
い」と考える。

15年11月からは、ハウス内の
照明に発光ダイオード(LED)
電球を導入。現在30個の電
球を設置し、イチゴなどの野菜
の生育に合うかどうか試験を続
けている。

(みやぎ登米)